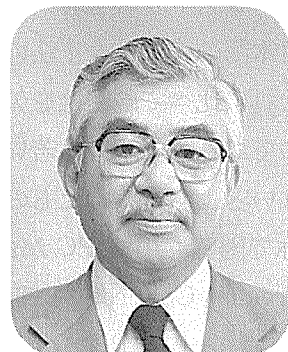


英語の略記・略称に悩む



六 車 熙*

いよいよ来年10月には、わが国では初めてのFIPシンポジウムが京都国際会議場で開催される。すでに外国から100件、国内から141件のアブストラクトが寄せられ、3日間の会期でこれらの論文発表をいかに捌くか、主催団体のPC技術協会にとっては嬉しい悲鳴であり、準備に携わる委員各位には大変頭の痛い問題である。また、わが国のPC技術を含む最新のコンクリート技術を世界に紹介する目的で同時開催される、技術展示会の準備も順調に進んでいる。加えて来年秋には、PC技士の協会制度が関係官庁・諸団体の協力のもとに発足する予定である。今年は日本経済の陰りが一段と色濃くなり、不景気風が身にしみる年末となったが、その中であってPC技術協会はこのように順調にその活動を伸ばしてきている。会員の皆様方の多大の御支援の賜物と、誌上を借りて厚く御礼申し上げたい。

FIPシンポジウムでは英語が公用語である。馴れない英語で押し通さなければならないと思うと気が重くなる。国際化が進んだとはいえ、大方の日本人にとって、程度の差こそあれ苦痛に感ずるのは間違いなからう。しかし、案ずるより生むが易しで、単語を並べるだけで案外相手は理解してくれるものだ。テクニカルタームについても日本流に英訳すれば通じることが多い。ただ、英語のテクニカルタームを日本流に英訳し、かつ、これを略号で話すと通じない。その一例にプレストレスト鉄筋コンクリートがある。英語ではPartially Prestressed Concrete、略号はPPCと言うが、日本流に英訳するとPrestressed Reinforced Concrete、略号はPRCとなる。したがって、いきなり外国人に略号でPRCと言っても通じない。ただし、日本流英語でフルにPrestressed Reinforced Concreteと言えば、Partially Prestressed Concreteのことかと理解してくれることが多いようだ。外国人はPPCとかPRCといった略号で書いたりしゃべることは一般に少ないことも、同時に心得ておくとうい。ただし、一度フルに行ったらうえて略称を使うことはかまわない。

最近大型のPC橋梁などで外ケーブルの使用が注目されている。外ケーブルを使用すると、PC鋼材のコンクリート断面内配置による断面欠損が起こらず、とくに大型部材では部材の軽量化が積極的に図れるばかりでなく、断面欠損部分に起こり易い縦割れなどの故障の心配がなくなるなど、利点が多いためである。英語では外ケーブル工法のことをExternal Prestressingと呼ぶことは周知であろう。これはコンクリート断面外側に配置したPC鋼材を緊張してプレストレスを導入する工法、すなわち、外側からのプレストレス導入という表現になっている。しかし、日本流に外ケーブル工法を英訳して、Out CableとかOuter Cableとか言われるのを時々耳にする。もともとOutは「外部に」とか「外部

* Hiroshi MUGURUMA : 本協会会長、京都大学防災研究所教授

◇巻頭言◇

へ」という意味の副詞であって、Out Cable という英語は文法上あり得ない。また、Outer は形容詞で「外側の」という意味であるが、Outer Cable という外側にあるケーブルを意味するだけで、外ケーブルでプレストレスを導入するという工法を表す表現とはならない。むしろこれは、外ケーブル工法という日本語の表現が、工法の内容を表すのに不十分なのかも知れない。このように日本語の表現は、英語のそれに比べて厳密性を欠くことが多い。このことは昔から言われていたことで、日本語の特徴でもあるのであろう。筆者も若い頃、恩師から、書いた文章が厳密・明快でない、ひどいときは文章になっていないとよく言われたものだ。

略称で困るものに PC がある。これは Prestressed Concrete の略称として広く使用されるとともに、Precast Concrete の略称としても早くから使用されてきた。Prestressed Concrete の場合は国際的な略称として PC が使用されていることは周知であるが、Precast Concrete については PC は国際的に通用しない。わが国で Precast Concrete といえば鉄筋コンクリートプレキャスト部材を指しているが、もともと Precast という言葉の意味は、英英辞典による Made into blocks ready for use in building (建物に用いるために予め部分にわけてつくった) とあり、別に鉄筋コンクリートと限っているわけではない。つまり Precast Concrete という言葉はコンクリートの既製品の総称であり、Prestressed Concrete や Reinforced Concrete のようにプレストレスを導入したコンクリート、鉄筋で補強したコンクリートとは異なるカテゴリーにはいる言葉といえよう。最近では PCa と略記している場合も見受けられるが、これも上記と同様である。したがって、鉄筋コンクリートプレキャスト部材であれば、正しくは Precast Reinforced Concrete Member (Beam, column, Panel, Slab, Wall など) と称するのが正しい表現である。これを例えば RC パネルを PC 板 (または PCa 板) と称するのはいかながなものであろうか。さらに、PC 工法と称して RC プレキャスト部材を組み立てる方法を行っているのは問題ではなかろうか。既製部材を使って組み立てるという英語は Prefabricate (動詞、名詞は Prefabrication) であって Precast ではないことを心すべきである。

なお、蛇足ではあるが Prestressed Concrete の略称 PC を使った奇妙な言葉がある。PC 鋼材 (鋼線、鋼棒、鋼より線) がそれである。日本語としては永年慣用されているので、国内では問題なかろう。おそらくこれはプレストレスコンクリート用鋼材 (Steel for Prestressed Concrete) という日本語英語に基づくものと筆者は思う。正しい英語は Prestressing Steel (Wire, Bar, Strand) である。

(付記：筆者は英語学については全くの素人である。したがって、ここに述べた記述に誤りがある恐れは多分) がある。もしそうであればお許し賜りたい。